

## 史料館報

第 62 号

平成 7 年 3 月

## 史料館と歴史学会

## 一 史料館と地方史研究協議会

本年は終戦五〇周年という大きな節目にあたる年である。この五〇年を歴史学の分野から振り返ってみると、学問・研究の進展もさることながら、全国的に進められた史料保存機関の成立に注目せざるをえない。地域の歴史を理解するためには、そこに残された、さまざまな史料を保存しておく必要がある。それは文書・記録などの史料ばかりでなく、道しるべや渡し場跡など、先人の生活の跡をとどめる物史料すべてに関し

ての保存なのである。しかも、戦後の激動期による史料散逸の危機は、その後の高度成長による社会変化によって、さらに加速

吉原 健 一 郎

(成城大学文芸学部  
教授・当館運営協議員)

されていった。過疎化の進行、再開発にともなう家の建てかえをはじめとして、地域に残された歴史の記憶が、つぎつぎと破壊されてしまった。いわゆる自然環境の破壊は歴史環境の破壊をも同時進行させたのである。

こうした社会の変化のなかで、心ある地域の人びとの力によって多様な史料保存の運動が進められ、保存機関の設立をみたのであるが、五〇年という流れのなかで、その契機となったのは一九五一（昭和二六）年の史料館の正式発足と地方史研究協議会の設立であったということができるだろう。この二つの機関の誕生は、偶然的なものではなく、まさに戦後歴史学が国家にとっても、学会

目次

史料館と歴史学会……………吉原健一郎 (1)  
国際文書館評議会東アジア部会「記録管理の自動化に関するワークショップ」に参加して……………山田 哲好 (4)  
第二回「記録史料の保存・修復に関する研究集会」について……………青木 睦 (4)

史料所在調査報告…………… (5)  
新収史料紹介…………… (6)  
受贈図書…………… (7)  
平成六年度  
史料管理研修会修了者一覧…………… (12)  
集報…………… (13)

にとつてもどのような方向づけられるべきかを示した画期ではなかったと思われるのである。

この両者の誕生の基本に流れる思想は、史料保存の問題であった。つまり根っこは同じなのである。史料館設置の目的は、規程によれば、

わが国の史料で主として近世のもの（以下「史料」という。）を収集し、保存し、及び利用に供し、併せて史料についての理解及び普及を図り、もつてわが国における史学の研究に資するために、文部省大学学術局に史料館を置く。

となつている（『史料館報』第五九号）。すなわち、国の責任において、近世以降の史料の収集・保存機関を設立したわけである。

歴史諸学会の連合協議機関として成立した地方史研究協議会でも、その設立主旨に史料保存の問題が強調されている。『地方史研究』創刊号（一九五一年三月）のなかで、野村兼太郎会長は、

中世以降、殊に近世においては未だ全く利用されていない根本資料が頗る多い。その全国に亘つて埋蔵されている数量は夥しいものであろう。又たまたまその地方の特殊の研究者に知られながら、一般に示されていないために、殆どその価値を知られないものも少なくあるまい。又これに反して全般的知識が欠如しているために、極めて普遍的現象をその地方の特殊の表現に眩惑されて、地方的特殊現象と誤認している場合も少なくあるまい。これらの根本資料の踏査、各地各地の研究の如きは到底一個人の手に依つてなし得るものではない。各研究者の相互連絡に依つて、多くの人々の研究を周知せしむることが必要である。この点において地方史研究協議会の任務は頗る大である。

とし、研究の周知、資料の活用を主張した（『地方史研究協議会の発足に際して』）。ここでは史料の保存

は強調されていないが、活用のためには保存が大前提であり、以後同協議会は史料保存運動を活動の主要な柱としていくのである。たとえば、学術資料散佚防止の運動として進められた学術資料保存協議会にも、地方史研究協議会の常任委員が出席し、また大会においても、この問題が討議され、全国の会員から散佚状況・保存状況のアンケート回答も寄せられている（『地方史研究』第四号）。

以後、地方史研究協議会では、日本歴史学協会や日本学術会議に委員・会員を送り、史料保存の問題を訴えてきたが、同時に史料館のあり方に関しても常に関心を持ち続けてきたのである。この史料館と地方史研究協議会との関係は、今後とも変わることなく保たれていくであろう。

## 二 史料館と日本歴史学協会

わが国の歴史関係学会の統一連絡機関である日本歴史学協会（日歴協）は、学術会議会員の選出母体であり、また文部省の科学研究費の問題、歴史教育の問題など、さまざまな問題に取り組んできた学協会である。史料館の行政勧告問題が表面化した翌一九八三（昭和五八）年に、

この問題を検討すべく日歴協では国立史料館問題特別委員会を設立した。その後の経緯の詳細は省略するが、国立でただひとつの史料保存・利用施設である史料館と、新たに設立された国立歴史民俗博物館との一部事業内容の重複につき再検討せよとの勧告は、日歴協にとっても理解しがたいものと考えられたのである。

特別委員会では、史料館側の意見を求めつつ、史料館のより一層の充実こそが問題解決に結びつくのではないかという結論に到達した。この結果として歴史情報資源研究センター（歴情研）構想が生まれたのである。歴情研は、わが国の歴史に関する全ての情報を収集し、利用に供するための施設として構想されたのであるが、現在は学術会議の勧告に持ち込むための努力が行われている。

皮肉なことに、今回村山内閣のもとで、総理府に「アジア歴史資料センター」を設ける動きが浮上している。これは、研究機関ではないということであるが、さきの歴情研構想のアジア版と考えることができる。その具体的内容は明らかではないが、史料館がこれまで進めてきた

国内の歴史史料の収集、保存の問題点を踏まえつつ、国際的な近現代史料をどのように収集するのか見守る必要があるのではないだろうか。

特別委員会で問題とされたことのひとつに専任の史料館長不在の問題があった。榎本館長の死去後一〇年以上も館長が置かれなかった理由は複雑な事情があったのであろうが、組織としては変則的なことは事実である。館の意志統一、外部との交渉など、種々の面で不都合が生じていたと思われる。しかし、この問題も小山前国文学研究資料館長、佐竹現館長の御努力によって、昨年夏に森館長が専任館長に就任した。

こうした経過を前提に、日歴協では特別委員会を解散することとした。さらに、今後は全常任委員によって学術体制特別委員会を設け、歴史関係の大学共同利用機関全体について検討することとなり、そのなかに史料館小委員会という形で存続することになったのである。いずれにせよ、史料館の発展は歴史学諸学会の希望することであり、文部省もその事業について十分理解し配慮しているようである。日歴協としても、こうした状況がより望ましい方向に進むことを期待し、諸学会の意

向を反映させるための努力を行うべきであろう。

## 三 史料館への期待

史料館の事業にたいする期待は、さまざまである。ここでは、その幾つかについて簡単に述べておきたい。

まず第一に、現在進められている全国の史料所在情報の収集の完成である。しかも、その上で史料のマイクロ化を進め、同一史料の複数化を行っていくべきであろう。さきの阪神大震災では史料の散佚が懸念されているようだが、関東大震災においても失われた史料は少なくなかったのである。たまたま震災前に写本として残されたことによって、現在研究が可能となっている史料が多数存在する。

さらには、全国の史料保存利用機関とのネットワーク化によって、全国の諸機関との史料情報の相互交換も期待される。二一世紀に向けて、史料そのものの電子化、映像による情報サービスが可能になることを期待したいのである。

第二に、歴史関係の論文・文献の情報を史料館で集中し蓄積して欲しいと思う。過去に地方史研究協議会

では『地方史文献目録』を毎年編集・刊行していた。しかし、これには大量の時間と労力が必要であり、現在では行われていない。こうした事業は国立の機関でなければ不可能なのである。

現在史料館では『館蔵地方史文献目録』の発刊を準備しており、さらに『地方史年鑑』の発行を構想しているという（『史料館報』第五五号）。その実現を期待するとともに、二一世紀には『日本史年鑑』のような、わが国のみならず国際的な日本史関係文献の総合目録の刊行を企画して欲しいものである。もし刊行が不可能ならば、データ・ベースとして取り出せるだけでもよい。

第三には、公文書館等の専門職員（アーキビスト）の養成に取り組ん

でもらいたい。この面では、史料館は以前から近世史料取扱講習会を行

い実績を積んできている。わが国の史料保存機関の実態からみて、アーキビストのあり方は重層的なものにならざるを得ないと思われる。そのばあい、府県レベル、市町村レベルでのアーキビストの養成方法、資格の認定方法などが問題となるであろう。こうした問題に対応するためにも、今後の研修会等の充実、拡大が期待される。

以上、若干大風呂敷を広げてみたが、わが国の歴史研究の国際化のために、史料館がより一層重要な役割を果たすべきであるという考えに基づいて、今後の期待を述べたつもりである。

### 史料館所蔵 学術雑誌が閲覧できます!!

七月一日から、約一二〇〇タイトルを予定!

史料館では、史料目録、地方史誌について、所蔵している各種の学術雑誌を公開するため、作業を進めてきましたが、今年七月一日をめどに、閲覧が出来ることになりました。

閲覧が出来るようになるのは、『地方史研究』など、約一二〇〇タイトルです。著作権法に抵触しない限り複写サービスもできます。雑誌の公開についての問合わせは、情報閲覧室へ（内線五二一）。

### 阪神・淡路大震災と被災史料の救助活動

阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）で被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

去一月一七日の地震は、予想を越える直下型大規模地震だったとはいえ、あらゆる意味で日本社会における危機管理の不十分さを知らされる結果となりました。救援活動では、人命救助が何よりも優先されることはいうまでもありませんが、生活基盤そのものが崩壊してしまうような大災害のなかでは、貴重な歴史資料の滅失・散逸が始まるのが懸念されます。そこで、現在いくつかの団体が救援活動を開始しています。

まず文化庁、兵庫県教育委員会、および文化財・美術・資料保存関係団体（全国美術館会議・古文化財科学研究会・日本文化財科学会・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）による阪神・淡路大地震被災文化財等救援委員会は、神戸芸術工科大学（神戸市西区学園西町）内に救援本部を置いて、被災文化財等の情報収集活動を行うとともに、全国からのボランティアの参加をえて、救助活動に取り組んでいます。

次に、阪神間の四つの歴史学会

（大阪歴史科学協議会・大阪歴史学会・京都民科歴史部会・日本史研究会）が、被災史料の保全・救済を目的として、尼崎市立地域研究史料館内に「歴史資料保全情報ネットワーク」（略称「史料ネット」）を開設して、地元の学生・大学院生、若手研究者を中心に、被災家屋内の史料に関する調査や緊急引き上げ等の史料救出活動を行っています。

さらに、文化財修復保存の専門家らによって「地元NGO救援連絡会議」に発足した「文化情報部」でも、歴史資料・文化遺産の救済ボランティア活動を展開しています。

被災した史料の救助としては、初期の段階では、被災家屋の撤去や解体作業が進められる際に家屋内に残された資料の救出処置があり、これは緊急を要します。つぎには、長期的展望にたった保存・修復の手当が必要になるものと思われれます。

今後被災地への継続的な支援と協力を続けるとともに、史料保存機関の共通の課題として、平時からの被災史料の救援体制や救援マニュアルづくりを本格的に考えていく必要があるように思います。

(F)

## 国際文書館評議会東アジア部会「記録管理の自動化に関するワークショップ」に参加して

山田 哲好

一九九四年一〇月二四日から一五日まで、中国の北京で標記のワークショップが開催され、幸いにも国際交流基金の助成を受けて参加と報告する機会を得たので、その概要を記すことにする。

本会の主催は中国国家档案局で、参加国は予想を上回る八カ国（マカオ、マレーシア、バキスタン、ベトナム、モンゴル、サウジアラビア、ロシア、日本）、二六名が参加した。日本からは小松郁夫氏（神奈川県立公文書館）と共に参加した。

プログラムは、以下の通りである。

①記録管理の自動化とシステム構築の技法、②総合データベース(CO-XTASE)の概要と実習、③実用システムの紹介、④記録管理の自動化についての新技術、⑤自動検索のデータ準備、⑥日本の文書館におけるコンピュータの利用状況（山田）、⑦⑧は国家档案局の情報処理専門家が担当し、データベースの一般的な構築方法と档案局構築のデータベースの紹介、さらに最新の光ディ

スクによる記録管理の紹介とデモがあった（スキナーでの読み込みミッドは、現在世界一とか）。⑥は栃木、群馬、東京、神奈川、富山、徳島の六都県立文書館の事例を紹介し、さらに史料館で行っている「史料所在データベース」の構築経過、問題点及び課題について報告し、ノート型パソコンを持参して検索デモも行った。また、馮恵玲助教授の紹介で、所属する人民大学档案学院の諸施設の見学と⑥の概要を報告し、情報処理専門家と交流の機会を得ることもできた。

本会は東アジア地区初めての企画であったが、全参加国に報告の機会がなかったのが残念である。毎年開催の予定なので、スケジュールも含めて検討する必要がある。末尾ながら主催した国家档案局ならびにスタッフや通訳の方々の労苦に心から感謝の意を表したい。また、私事ながら北京で誕生日を迎えたが、休日にも拘らず祝って下さったスタッフ及び参加者にもお礼申し上げる。

## 第二回 記録史料の保存・修復に関する研究集会について

青木 睦

平成六年一二月二四日から二六日までの三日間、第二回記録史料の保存・修復に関する研究集会が当館で開催された。この研究集会は平成五年に第一回が開かれたが、そのメインテーマを引き継ぎ「記録史料の保存・修復に関する理論と技術の発展をめざして」と題して行われた。

二四日のテーマI「災害から記録史料を守る―世界からの報告―」

は、ICA（国際文書館協議会）防災委員会のメンバーの報告が中心であった。（この委員会は、文書館の防災対策に関するガイドラインを作成するため平成四年に設置され、八年ICA北京大会までにガイドラインを提示する事になっている。）メンバーは、スウェーデン、イギリス、フランス、アメリカ、クロアチア、それに日本の各国から1名ずつで、みな文書館における保存や危機管理のエキスパートである。クロアチアの委員は旧ユーゴスラビアでの紛争から記録遺産を守るため、大変な努力をされている方であった。内容は、ICAと防災活動、防災計画

の開発と災害リスクの管理、災害対策の12のステップ、スコットランド国立図書館の事例にみる火災リスクの管理、スウェーデンの文書館建築物、災害に学ぶ史料保存施設―日本の低湿地の一事例、フランスの保存と防災、武力紛争および天災と民族文化遺産の保存―クロアチアの内戦と記録史料の被害状況―である。

二五日は、テーマII「保存の共通基盤を求めて―文書館・図書館・博物館から―」と題し、三機関における保存問題についての報告とパネルディスカッションがおこなわれた。二六日は江戸東京博物館での保存環境を主とした見学会があった。参加者は一〇〇名を越えた。諸外国における防災対策の現状と文書館が当面する様々な問題を直接きき、そして私たちが国内で行っている試みを話し、情報の交換ができた貴重な集会であった。単に知識を増やせばかりでなく、世界の他の国々の文書館に対してなにができるのかということを考えさせる良い機会となった。

## 高山市郷土館蔵

一九九四（平成六）年二月六日から九日までの四日間、岐阜県高山市上一之町七五番地高山市郷土館において、高山町会所・戸長役場文書（仮称）の第二回調査を実施した。

参加者は、郷土館から谷島博之氏・政井陽子氏、当館から丑木幸男・大友一雄・渡辺浩一、ボランティアとして保坂裕興氏（駿河台大学）・富善一敏氏（日本学術振興会特別研究員）・西田かほる氏（学習院大学史料館）・田島尊志氏（上智大学学生）の計九名であった。

今回は一八箱、一一〇二点の史料を整理した。本史料群の概要と整理の方針については本誌六〇号において報告したので、ここでは、本史料群の階層構造を模索しつつ整理するにあたって必要不可欠な史料を紹介してみたい。

それは、「明治六年至十二年区長戸長受渡目録・諸帳簿目録」（整理番号一四二一一）という簿冊に含まれる三冊の目録である。作成年月日、表題、作成者↓宛先の順に

以下示す。①明治六年八月二〇日、

高山壱之町附諸書物引渡目録、元戸長矢島一郎↓区長船坂雅平・戸長田近盛城ほか三名。②明治六年一〇月五日、高山式之町附諸書物引渡目録、戸長川上猷↓区長船坂雅平・戸長田近盛城ほか二名。③明治六年七月、引渡御用諸書物目録 三之町、故里正屋貝権四郎ほか故組頭惣代四名↓区長船坂雅平・戸長田近盛城ほか二名。

それぞれの作成者、矢島・川上・屋貝は近世において世襲でそれぞれ壱之町村・式之町村・三之町村という組合町の町年寄を勤めていた家である。区長船坂はこの時点では第一五大区の区長と思われる。宛先の戸長が小区の戸長か「町村」の戸長かは未解明である。したがって不明の部分を残しつつも、この三冊の目録は、壱之町村・式之町村・三之町村のそれぞれの元町年寄が戸長退役にあたって、第十五大区長と高山の戸長三名にあてて、文書を引き継いだ時の目録であるということが出来る。

以下は内容を紹介する。①では、まず元禄八年から安永三年までの屋敷検地帳・新田検地帳・地改帳など七冊が「壱番」として登録され、それは「一箱」に収納されている。ついで、「貳番」から「五十四番」までは「革簞笥」に収納され、その内容は水帳写四冊、年貢割付・皆済目録二二袋、そのほか明細帳・土地関係の多様な帳面、さまざまな一件文書などであり、さらには「町会所夫食蔵鍵」「馬場郷蔵鍵」もある。その次の保管容器は「桐簞笥」であり、五五から七一番まで、町会所入用や組合町入用の帳簿や沽券状、そのほか種々の町政関係の文書が納められている。最後に文政二年から明治四年までの宗門人別帳一〇一袋が七二・七三番として記載され、「長持忒棹、箱壱ツニ入」と記されている。

式之町の目録も以上とはほぼ同様である。③の三之町の目録では検地帳が別扱いになっておらず、「御用皮簞笥」に割付状・皆済目録を主とする諸史料のなかにまじって登録されている。もう一つの保管容器は「春慶塗御用簞笥」であり、そこに記載されている史料は、①②の「桐簞笥」収納史料と共通の性格を持つ。

③には以上のみ記載されており、長持がないために宗門人別帳の記載がない。そのかわり末尾に「右之外町会所二有之候三之町分諸書物皆式」とある。「皆式」の意味は留保せざるをえないが、三之町村の宗門人別帳はその後の目録にも記載され、なおかつ現存していることから、三之町村の文書の一部は町会所に保管されていたことがわかる。逆にいうとこの三冊の目録に記載されている史料は町会所には保管されていないかった、ということになるのである。とすれば、その保管場所はそれぞれの町年寄宅以外には考えられないのではなからうか。

ところで、本史料群を特徴づける史料として、町年寄日記五九冊、願書留一五冊があるが、これらは上記の目録に記載されていない。したがって、町会所保管分の町会所文書が一方では存在したことがわかる。こうしたことから、前回報告で述べたように、高山町会所文書のサブグループは町会所・壱之町村・式之町村・三之町村の四つという仮説をとりあえず立てたわけである。第二回目の調査をへても、この仮説は有効であることが確認されている。

（渡辺浩一）

#### 〈史料所在調査報告〉

島根県立図書館所蔵・松江藩郡奉行所文書（伝「御徒文書」の内）

一九九一（平成三）年から四年間にわたって実施した島根県立図書館所蔵「松江藩郡奉行所文書」（伝「御徒文書」の内）の所在調査は、一応本年度をもって終了した。この間島根県立図書館から賜った御高配に對し心から感謝申し上げる。ただ、仮整理を終えていない文書がまだ若干あること、保存手当やラベル貼付の作業が途中であること、の二つの課題が残っているため、これからも形を変えて協力を継続していきたいと考えている。

四年間の調査に参加して下さった方々は、島根県立図書館から内田文恵、北村久美子、山田富美代のお三人、地域史研究者の藤澤秀晴、松本美和子、岡本久美子、島根大学学生の岡田隆徳、松村淳子、増本好史、山本賢司、福島幸宏の皆さんであった。ありがとうございました。

「松江藩郡奉行所文書」の内容や伝来の経緯については「史料館報」五六号（一九九二年三月）の「中間報告」を参照いただきたいが、要するに松江藩郡奉行所が行なった出入

筋（民事）の裁判記録原本である。

山論、地境論、網場出入、金銭貸借出入、相続争いなど多岐にわたる事件の記録が一件ずつ袋に入れられ、およそ二七〇件分残存している。近世藩庁裁判記録の原形態を残している極めて貴重な史料であり、法制史学界などからも注目されている。

整理は現状記録を第一に考え、まず一件袋に入っている文書の束や包みの状態を詳細に写真撮影した。目録については、とりあえず束や包みごとに形態と数量及び概要を記述する「概要目録」の段階で止める方針で作業を進めたが、一点一点の目録をとってくれた人が多く、結果的にはかなり詳しい目録ができた。

今後の予定としては、できるだけ早く閲覧利用体制を整えるために、次の二点を急ぎたいと考えている。  
(1) ラベル貼付、及び中性紙保存紙や中性紙保存箱等による保存手当ての方法について、部分的な試験を行った上で、島根県立図書館に対して具体的な提案をまとめる。

(2) これまでに作成した「概要目録」の点検と調整を行い、閲覧者用の目録を作成する。この作業は、できればパソコンを利用して実施したい。

（安藤正人）

## 平成六年度 新収史料紹介

⑤はマイクロフィルムによる収集を示す。

### ④ 北海道 福島町宮歌村文書

宮歌村文書は北海道南部、渡島支庁管内松前郡福島町内の宮歌八幡神社所蔵文書で、現在は福島町教育委員会に寄託されている。北海道内では、まれな近世村方文書で、和人の移住が行われた一六〇〇年代中期（寛永年間）の記事もあるが、文書の作成年代が特定できるのは、隣村白符村との境界争いが発生する一七三〇年代（元文年間）以降である。

高山町会所文書のうち、「町会所日記」はすでにマイクロ収集したが、史料学研究の対象としてすぐれた史料群であるので、その全体像を把握するために平成三年度から所在調査を実施している（『史料館報』六〇号・本号参照）。そのうち明治期の史料四七点を撮影した。

明治六年から一二年までの「区長戸長受渡目録・諸帳簿目録」、二二年の「役場引渡目録」などを収集した。それらの文書目録の番号と、史料に貼付された複数のラベルの番号とが一致し、近世以来の史料の保存・整理の過程とその整理原則を復元できる。また、目録に「廃棄」などの注記があり、戸長役場時代に作成・授受した史料の整理方法を跡づけることが可能である。

他に明治五年から一九年までの「布告・布達綴込」などを収集した。今後とも収集を継続する予定。（史料所蔵者）岐阜県高山市上一之町七五番地、高山市郷土館、撮影点数一五リール、八八九六コマ）

一九九〇年、北海道立文書館が撮影したマイクロフィルムを借用、複製、紙焼本を作成したもので、福島町のご好意で、当館研究用のほか閲覧にも供することを許されたもの。（史料点数一〇四点、四リール）

### ⑥ 飛騨国大野郡高山町 高山町会所・戸長役場 文書

⑤ 信濃国 下戸倉村坂井家文書  
壇科郡

坂井家文書は下戸倉村名主・年寄・戸長等の役職から作成された村政関係の公文書と、坂井家自身の冠婚葬祭をはじめ、酒造経営や戸倉温泉開湯等の経営にかかわる私文書から構成されている。

下戸倉村は善光寺平の南端を占め、千曲川の右岸に位置し北国街道沿いに面し下戸倉宿とも称した。

坂井家は、「下の酒屋」と呼ばれ近世前期から酒造業を営み、現在も「雲山」の蔵元として営業し、「酒造コレクション」を開館して酒造道具や関係記録を展示・公開している。

坂井家文書は約七千点余り存在し、このほかにも膨大な書簡や加舎白雄に関する俳諧等の文芸資料も存在し注目される。

なお、坂井家文書については、すでに史料所在調査を一九八四年（昭和五九）・八五年の二か年にわたり実施し、その概要については、『史料館報』第四二号（一九八五年）、四四号（一九八六年）に掲載されている。（現蔵者＝長野県壇科郡戸倉町一八五五ノ一、坂井永一氏。撮影収録点数一五二点、八リール、四、六〇二コマ）

⑥ 美作国 松平家文書  
津山 （愛山文庫）

津山郷土博物館所蔵松平家文書をマイクロフィルム撮影により収集した。本文書のマイクロフィルムによる収集は、昭和六一年、平成元年、同三年、同四年、同五年の各年度に続くものであり、特別研究「近世史料の古文書学的研究」による。津山松平家に関する概要、および既収集史料の内容に関しては、館報四六・五二・五六・五八・六〇の各号を参照されたい。

今回の収集では、松平家文書「国元日記」のうち、文政元年（七十七二月）から文政十二年（一月～七月）までの簿冊二冊を撮影した。この間の「国元日記」は、いずれも一月～六月までと、七月～十二月までとに二分されている。一冊の丁数は三〇〇～五〇〇丁に及んでおり、その内容もたいへん豊かである。なお、この研究により「国元日記」は、元禄一年の松平氏入封以降、文政までのものをすべて撮影したことになる。なお、当館では右の撮影史料を紙焼のうえ、すべて公開している。（現蔵者＝津山郷土博物館、岡山県津山市山下九二。収録点数14リール、八、〇八二コマ）

受託史料 立正大学経済学部史料

- ・長州藩士桂家文書
- ・武蔵国横見郡松山町文書
- ・信濃国更科郡南牧村文書

この三文書群を含む立正大学経済学部史料は、立正大学学園・立正大学経済学部にある日本経済史史料である。この史料群は、立正大学経済学部教授であった現・江戸東京博物館研究員の北原進氏がこれまで整理・管理を担当していたものである。職場を移られるにあたり、この史料群をより広く利用に供し、保存管理の整った施設での保存と利用を考えられた。そこで、立正大学経済学部より当館に寄託されることとなった。

長州藩士桂家は、中世以来、代々毛利家に仕えた家柄で、近世においては藩の寄組に属する上級家臣である。この桂家の傍系には、維新三傑の一、桂小五郎、軍人政治家桂太郎らがいる。桂家に伝えられた文書は、西南外様雄藩たる長州藩の中上級家臣の動向を知り得る史料であり、戦国期より秩禄処分頃までを覆っている。史料館での利用にあたっては、同大学で整理・管理されてきた目録の構成のまま行うことと

した。文書約六七四点は、系譜・家、知行・名替、奉公・勤役、伊勢御使村山氏充文書等を構成とする。文書の保存状態は良好である。

武蔵国横見郡松山町文書は、現在の埼玉県東松山市の中心部、松山一～三丁目あたりで、江戸時代より明治二三年まで松山町と呼ばれていた所の史料である。同町は、寛永検地帳には松山本郷村とあるが、永禄五年北条氏印判状には「松山本郷町人衆中」とあり、古くから町場・市場としてとらえられていた。近世後期より明治一〇年代にいたる文書九五点である。

信濃国更科郡南牧村文書は一一四点あり、宗門帳等の帳簿類が弘化四年から明治二年までの幕末期のみで、検地帳、名寄帳などの基本帳簿を欠いている。一紙文書は天和元年から慶応三年までである。南牧村は近世においては松代藩領に属し、旧高田領取調帳三四六石余という規模の村であった。松山町、南牧村文書ともに、古書店より同大学が購入した史料である。いずれも虫損などほとんどなく、保存状態が良好である。

（青木 睦）

受贈史料 播磨国屋形旗本

池田家文書(追加)

本文書は、藤沢市文書館長高野修氏を介して見上保氏(神奈川県茅ヶ崎市住)より寄贈を受けたもので、総点数は一五件(八冊、一折、六枚、三通、七鋪)である。池田家文書は昭和四三年度に池田佐与氏(神奈川県茅ヶ崎市住)より既に当館が譲渡を受けており、その際の同家残存分を見上保氏が譲渡を受け、それを当館に寄贈されたものである。

その主な内容は、旗本池田氏知行所絵図(天保八年)、池田家法としての御条目が宝暦六年(推定)と文政一年の二冊があり、主として家臣団勤仕奉公に関するもので、旗本家法として注目されよう。また、十代池田内記宛若年寄連署奉書もある。系譜類の三冊は既収文書の原本である(いずれも複写)。他に長州征伐記、池田家旗詠図、山口城絵図等がある。さらに殿中表絵図他三点の絵図類には、「中村蔵書」印があり、原蔵者の池田家文書に既に混在していたものと推測され、詳細は不明である。寄贈いただいた見上保氏と仲介者の高野修氏に感謝する次第である。(山田哲好)

受贈図書 平成五年度(二)

(一)内は寄贈者名(敬称略)ただし、省略されている場合があります。

- 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報 第19集  
[宇治市教育委員会]
- 第5回歴史の華ひらく泉南シンポジウム  
△[泉南市教育委員会]
- 泉南市文化財調査報告書 第24集 [同右]
- 守口市文化財調査報告書 第1～6冊  
[守口市教育委員会]
- 兵庫県史 史料編近世3 [兵庫県]
- 岡山県寺社所有資料調査報告書 1～3  
[岡山県教育委員会]
- 淡路島の仏教美術 [洲本市立淡路文化史料館]
- 呉市史 第7巻 [呉市]
- 古文書調査記録 第17集 [福山城博物館友の会]
- 岩邑年代記 (4) [岩国徴古館]
- 香川県歴史の道調査報告書 第9集 11集 [瀬戸内海歴史民俗資料館]
- 伊予近世社会の研究 上 [影浦勉]
- 直方市文化財調査報告書 第14・15集  
[直方市教育委員会]
- 大分県先哲叢書 田能村竹田 [大分県教育委員会]
- 国衙・郡衙・古寺跡等の範囲 [宮崎県教育委員会]
- 都農町文化財調査報告書 第5集 [宮崎県 都農町教育委員会]
- 高崎町文化財調査報告書 第4集 [宮崎県 高崎町教育委員会]
- 北方町文化財報告書 第6集 [宮崎県 北方町教育委員会]
- 上山ノ丸遺跡・北ノ迫遺跡・子丸遺跡  
[宮崎県教育委員会]
- 高城町文化財調査報告書 第1・2集  
[宮崎県 高城町教育委員会]
- 宮崎の遺跡 1982-1991 [宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター]
- 奄美史料 (23) [鹿児島県立図書館奄美分館]
- 南日本文化研究所叢書 18 [鹿児島短期大学付属南日本文化研究所]
- 日本外交文書 昭和期国際連盟経済関係会議報告書集 第2巻 [外務省]
- 日本荘園絵図聚影二 近畿一 [東京大学史料編纂所]
- 大日本史料 第3編之23・第6編之42・第11編之20 [同右]
- 大日本古文書 幕末外国関係文書之44 [同右]
- 大日本古記録 中右記一 [同右]
- 大日本近世史料 近藤重蔵蝦夷地関係史料付図 [同右]
- 大日本維新史料 類纂之部 井伊家史料 18 [同右]
- 日本関係海外史料 オランダ商館長日記 原文編之8 [同右]
- 図書寮叢刊 九条家歴世記録 3・夫木和歌抄索引下 [宮内庁書陵部]
- 阿寒川水系総合調査報告書 [釧路市立博物館]
- 釧路の魚 [釧路市史編さん事務局]
- 余市郷土史 第5巻 [北海道余市町総務部]
- 函館写真史考(上)・(下) [桑嶋洋一]
- 鹿角市史 第3巻下 [鹿角市]
- 秋田城跡 平成4年度 秋田城跡調査概報 [秋田市教育委員会 秋田市城跡調査事務所]
- ものがたり てんどうの歴史 [天童市]
- いわき市史 第3巻 [いわき市教育文化事業団]
- 水戸市史 下巻(一) [水戸市]
- みよしほたる文庫 2 [埼玉県 三芳町教育委員会]
- 日光道中 江戸近郊の宿駅と文化 [佐藤久夫]
- 船橋周辺の講 [船橋市郷土史料館]
- すまいとくらしの文化史 [同右]
- 近世房総地域史研究 [吉田伸之・渡辺尚志]
- 船橋の民家 16 [船橋市教育委員会]



ふなばしの歴史と文化財 1993 [同右]

大田区史(資料編) 諸家文書4 [大田区]

北区史資料編 考古2 [東京都北区]

平塚市史 別編 民俗 [平塚市]

伊勢原市史民俗調査報告書 6 [伊勢原市]

文化講演録 第1輯 [福井市立郷土史博物館]

松本市史 第4巻 旧市町村編III [松本市]

裾野市史 第4巻 [裾野市]

沼津市史史料編 近世1 [沼津市]

沼津市史編纂調査報告書 第4集 [沼津市教育委員会]

美原町史 第4巻 [大阪府 美原町]

学童集団疎開の生活 [引率教員の日記]

大谷女子大学資料館報告書 第29・30冊

兵庫県立歴史博物館総合調査報告書 IV

安宅家文書の全体構造復元試論 [藤井寿一]

杵市

宮崎県文化財調査報告書 第36集 [宮崎県教育委員会]

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第11・12集 [えびの市教育委員会]

平成4年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書 [宮崎県教育委員会]

高原町文化財調査報告書 第1集 [宮崎県 高原町教育委員会]

南郷町文化財調査報告書 第3集 [宮崎県 南郷町教育委員会]

木城町文化財調査報告書 第3集 [宮崎県 木城町教育委員会]

広域農道沿海南部地区埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 [同右]

国道218号線高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書 [宮崎県教育委員会]

黎明館収蔵品選集 [鹿児島県歴史資料センター黎明館]

人文諸科学と情報(特定研究報告書)

信州大学文学部

平成4年度科学研究費補助金研究成果(中間)報告書 [京大大型計算機センター]

Current Problems in the Conservation of Metal Antiquities [東京国立文化財研究所]

平成5年度画像保存セミナー [日本写真学会]

小川雄二郎

淡路文化史料館十年史 [洲本市立淡路文化史料館]

神奈川県立公文書館開館記念誌

神奈川県立公文書館 2案内

文書事務の手引(第3版) [北海道総務部文書課]

北海道立文書館関係規程集(昭和61年1月)

文書館例規集 [群馬県立文書館]

群馬県立文書館例規集

情報公開ハンドブック(改訂版) [川崎市公文書館]

執行の手引(平成元年4月) [埼玉県立文書館]

執行の手引(平成3年4月) [同右]

執行の手引(平成5年4月) [同右]

川崎市の情報公開 [川崎市公文書館]

個人情報保護ハンドブック(改訂版)

[川崎市公文書館]

京都府立総合資料館規程集

資料寄託及び寄付取扱規程集 [京都府立総合資料館]

文書事務の手引 [富山県総務部総務課]

文書作成の手引 [奈良県総務部文書事務課]

文書事務の手引 [島根県総務部総務課]

文書・法制事務の手引 文書編・法制編 [佐賀県]

公文書等の集中管理(昭和52年刊) [国立公文書館]

国立公文書館設立20周年にあたって 公文書等の集中管理

地域文書館の設立に向けて(一)・(三) [埼玉県地域史料保存活用連絡協議会]

経済史文献解題 1991(平成3年)

・1992(平成4)年版 [大阪経済大学日本経済研究所]

京都府立総合資料館所蔵 改訂増補文書解題

北海道博物館等施設ネットワーク事業報告 III [北海道開拓記念館]

熱田神宮史料 造営遷宮編下巻 [熱田神宮宮庁]

浅草寺日記 第16巻 [金龍山浅草寺]

喜多院日記 第6巻 [川越喜多院]

喜多院日記 第3巻読み下し [同右]

可睡斎史料集 第3巻 [可睡斎史料集編纂委員会]

花押印判集影「三好二雄」

洋学資料による日本文化史の研究 VI

〔吉備洋学資料研究所〕

皇太子殿下ご成婚をこぼぐ〔皇太子殿

下御成婚東京都奉祝委員会〕

追慕 大瀬欽哉先生〔鶴岡市〕

ガイドブック「私たち人間の権利」〔立

命館大学人権問題研究室〕

編年百姓一揆史料集成 第16巻〔二書

房〕

泉屋叢考 第22輯〔住友史料館〕

住友史料叢書 年々諸用留 4番〔下

・5番〔同右〕

INSURANCE ITS PRINCIPLES  
AND PRACTICE IN JAPAN

〔廣成通信〕

租税資料叢書 第5巻〔国税庁税務大学

校租税資料室〕

部落史の西と東〔解放出版社〕

上智大学史料集 補遺〔1903〕1

969〕〔上智学院〕

神奈川大学史料集 第9集〔学校法人

神奈川大学〕

武蔵70年史〔根津育英会〕

九州大学史料叢書 第1〔九州大学

大学史料室〕

諸国叢書 第10輯〔成城大学民俗研究

所〕

神奈川大学日本常民文化研究所調査報告

第17集

歴史と民俗 神奈川大学日本常民文化研  
究所論集10

〔図録目録〕たばこ盆〔たばこ塩の博

物館〕

日本の公害 水俣病問題・足尾銅毒問題

〔大阪人権歴史資料館〕

杜寺の国宝・重文建造物等棟札銘文集成

〔国立歴史民俗博物館〕

近世後期における院内銀山の銀製錬技術

〔荻慎一郎〕

特集・院内銀山の社会と文化〔民俗芸術

研究所〕

門屋養安と院内銀山〔序章〕〔荻慎一

郎〕

鉱山町の社会生活―近世後期の院内銀山

―〔同右〕

天保年間における院内銀山経営〔同右〕

近世中期における高請地把握と質地慣行

の変化〔神谷智〕

近世百姓の屋敷地について〔同右〕

江戸明治のチラシ広告大阪の引札・絵び

ら〔大阪城天守閣〕

館蔵品目録 引札・明治・大正の商業広

告―〔岐阜市歴史博物館〕

奈良国立文化財研究所40周年記念図録

三井文庫別館蔵品目録 茶道具IV

品川区立品川歴史館蔵 浮世絵図録

近世村落の身分階層構造〔渡辺尚志〕

学校が「大和屋」と呼ばれた頃〔近藤健

一郎〕

北海道開拓記念館一括資料目録 第25集

釧路市立博物館収蔵資料目録 (一)

北海道立文書館収蔵資料目録 9 xiii

北海道開拓記念館収蔵資料分類目録 13

宮城県図書館所蔵 絵図・地図解説目録

宮城県図書館所蔵和古文書目録

毛利コレクション所蔵和漢書目録〔石巻

文化センター〕

陸奥国牡鹿郡浜方大肝入平塚家文書仮目

録〔同右〕

牡鹿郡十八成浜肝入後藤家文書仮目録

〔同右〕

山形県行政資料室資料目録 平成5年3

月31日現在

郡山市歴史資料館収蔵資料目録 第6・

7集

歴史資料館収蔵資料目録 第6集〔福島

県文化センター〕

群馬県山田郡大間々町大字塩原高草木正

太郎家文書目録〔山田武蔵・大沢亥之

七〕

埼玉県立文書館収蔵資料目録 第32集

埼玉県行政文書館総目録 第5集〔埼玉県

教育委員会〕

旧幕引継書目録 15〔国立国会図書館〕

憲政資料目録 第17〔同右〕

常陽の村落史料目録〔立正大学古文書学

研究室〕

明治大学刑事博物館目録 第57号

明治大学所蔵内藤家文書増補・追加目録

〔3〕〔明治大学刑事博物館〕

郷土資料室所蔵史料目録 三・〔目

黒区守屋教育会館郷土資料室〕

郷土資料室所蔵富岡丘蔵文庫目録〔同

右〕

町田市小野路地区文化財調査報告〔下〕

〔東京都教育庁生涯学習部文化課〕

京都妙顕寺文書目録〔立正大学文学部〕

仏教史料の体系的把握に関する基礎的研

究〔同右〕

三井文庫所蔵史料一件書類目録

旧華族家史料所在調査報告 本編114

・附編〔学習院大学史料館〕

富山県公文書館文書目録 歴史文書 9

富山県行政文書目録〔富山県公文書館〕

富山県公文書館資料目録 近代資料〔同

右〕

長野市立博物館収蔵資料目録 歴史1

岐阜県所在資料目録 第33集〔岐阜県歴

史資料館〕

静岡県榛原郡金谷町所在文書目録 第4

集〔金谷町〕

浦田家田蔵資料目録〔神宮文庫〕

滋賀県信楽町史料調査報告書〔II〕〔多

仁照廣〕

京都府資料目録追録 No.9〔京都府立総

合資料館〕

小沢・沢辺記念文庫目録〔同志社大学図

書館〕

高槻市史料目録 第16号〔高槻市〕

箕面市地域史料目録 22・23 [箕面市役

所総務部文書広報課]

大阪市立博物館蔵品目録

和泉国南部福田村福原家文書目録 [貝塚

市教育委員会]

姫路市史編集史料目録集 43・44 [姫路

市史編集室]

改訂増補池田家文庫マイクロ版史料目録

総記・国事維新・藩士1・4・法制

[岡山大学附属図書館]

行政資料目録(行政情報室分) 追録8

[岡山県総務部総務学事課]

山口県文書館蔵行政資料目録 一九四〇

年代・一九五〇年代

山口県文書館地方調査員調査報告 20

[山口県文書館]

歴史収蔵資料目録 第17 [瀬戸内海歴史

民俗資料館]

収蔵品目録 8 [福岡市博物館]

柳川古文書史料目録 第6集 [九州歴史

資料館分館柳川古文書館]

柳川藩今村家寄贈品目録 [同右]

福岡県公共図書館土資料総合目録 追録

5 [福岡県立図書館・福岡県立公共図

書館等協議会]

北九州市立中央図書館 劉寒吉文庫目録

北九州市立中央図書館 岩下俊作文庫目

録

長崎市立博物館資料目録 美術工芸・歴

史資料・洋書編

熊本研究文献目録 人文編III [熊本県企

画開発部文化企画室]

宮崎市行政資料目録・(同) 追録4 [宮

崎市]

公文類聚目録 第9 [国立公文書館]

内閣文庫所蔵 正保城絵図 II-15 [同

右]

## 平成六年度 (一)

日本外交文書 昭和期I第1部第4巻

[外務省]

梓川村誌 歴史編 [長野県] 梓川村]

苫小牧市博物館所蔵資料目録 6

札幌市中央図書館蔵書目録 第13・14巻

青森県立郷土館収蔵資料目録 第2・3

巻

福島県立図書館増加図書著者・書名索引

埼玉資料年報 昭和61・63・平成3年度

[埼玉県浦和図書館・埼玉県立熊谷図

書館]

庄本光政文庫目録 [埼玉県神社庁]

田中重之文庫目録・同 [補遺] [埼玉県

立浦和図書館]

成田山仏教図書館新着図書目録 第73号

映像音響資料目録 I・II [放送教育開

発センター]

東京都立中央図書館逐次刊行物目録 年

報年鑑一九九二年九月末現在 新聞雑

誌・同 [索引編]

東京都立中央図書館蔵書目録 一九八五

一九八八・一九八九・一九九〇

東京都立中央図書館中国語図書目録 一

九七・一九九〇

神奈川県立図書館・神奈川県立川崎図書

館 増加図書著者・書名索引一九九一

香川文庫目録 [秦野市立図書館]

新潟大学ヨーロッパ啓蒙思想コレクション

目録 [新潟大学附属中央図書館]

静岡県立中央図書館蔵書目録 第8巻

民俗資料分類目録 I [沼田市教育委員

会]

92品川区の公聴・情報公開 [品川区企画

部広報聴課]

栃木県立文書館執務の手引

公文書館規定集 [神奈川県立公文書館]

広島県立公文書館規定集

島根県における市町村行政文書の保存の

現状と課題 [竹永三男]

川崎市情報公開制度10年のあゆみ [川崎

市公文書館]

川崎市情報公開制度記念論文集 [同右]

喜多院日鑑 第7巻 [川越喜多院]

会員名簿 平成6年度 [霞会館]

霞会館百二十年の歩み

広島経済大学研究双書 第十二冊 [広島

経済大学地域経済研究所]

神奈川大学史資料集 第十集 [神奈川大

学]

東海大学五十年史 通史編・部局編 [東

海大学出版社]

新取日本地震史料 続補遺別巻 [東京大

学地震研究所]

馬の文化叢書 1・4・7 [馬事文化財

団]

近世日本海運史の研究 [上村雅洋]

郵政省通信博物館資料目録 別冊4

図像蒐成 II [上野記念財団助成研究

会]

漢詩人たちの手紙 [松本宏司]

江戸東京博物館総合案内

大田区立郷土博物館友の会 十周年記念

誌

開館十周年記念誌 黎明館

新旭布町史 上・下巻 [北海道 丸

瀬布町]

新旭川市史 第一巻 [旭川市]

新深川市史 [深川市]

盛岡藩「覚書」文政十三 [岩手県文化振

興事業団]

新札幌市史 第三巻 [札幌市]

気仙沼市史 VII [気仙沼市]

仙台市史 資料編10・同 別冊・特別編

I [仙台市]

御免鑑 第六巻 [秋田県公文書館]

村山市史 近世編 [村山市]

新庄市史 第三巻 [新庄市]

郷土資料叢書 第二十一輯 [新庄市立図

書館]

(以下次号)

## 1994年度（通算第40回）史料管理学研修会修了者一覧

### —[長期研修過程]—

- 1、坂内奈都子（浦安市教育委員会）  
現代史料の整理・分類に関する事例報告 —千葉県浦安市漁業協同組合文書—
- 2、小川 美保（日本女子大学成瀬記念館）  
日本女子大学成瀬記念館における史料の保存と利用 —「家庭週報」を事例として—
- 3、三枝 辰男（一橋大学附属図書館）  
一橋大学附属図書館の現状と問題点を踏まえた史料管理計画について —「軍配組合」関係史料を中心として—
- 4、金山 正子（大阪府公文書館）  
近現代史料の保存問題と公共保存施設の役割についての考察 —大阪府公文書館に寄せられた保存レファレンスの事例から—
- 5、松本 友里（神奈川大学大学院）  
史料論素材としての藩士日記—考察 —盛岡藩士菊池家日記について—
- 6、酒井 麻子（藤沢市文書館）  
史料保存計画 —藤沢市文書館における—
- 7、高橋 秀典（日本大学大学院）  
荒川区「皆川号外コレクション」における新聞号外・附録の整理及目録作成
- 8、降幡 浩樹（真田宝物館）  
史料目録による真田家史料群再構成への試論
- 9、村川 浩平（板橋区史編さん調査会）  
蜂須賀氏への松平氏下賜文書とそのライフサイクル
- 10、角田 茂（中央大学史編纂課）  
史料の蓄積とデータ処理の問題をめぐって —中央大学史編纂課の場合—
- 11、原田 清美（成蹊学園学術史料館）  
学校における史料管理についての再検討 —成蹊学園の場合—
- 12、佐藤 文智（千葉大学大学院）  
近世後期の一組織体の文書構造について —米沢藩鮎貝御役屋関係の文書を通して—
- 13、岡田 謙一  
史料の保存と利用について
- 14、生駒 哲郎（立正大学大学院）  
京都妙蓮寺一切経の目録作成について
- 15、宮原 一郎（国学院大学大学院）  
近世村落における村政と文書管理 —武州秩父郡大野村の事例を中心に—
- 16、辻崎 久哲（国学院大学大学院）  
江戸時代後期宿役人の文書収集と文書認識 —東海道川崎宿森家田蔵文書の史料学的分析—
- 17、穴山 朝子（お茶の水女子大学大学院）  
連合国による押収ドイツ文書 —その管理状況—
- 18、金井 聖子（お茶の水女子大学大学院）  
個人史料の整理と目録編成について —近現代・政治史関係史料を中心に—
- 19、瀧岡 由美（学習院大学大学院）  
「曾根崎心中」にみる町人の文書に対する意識について
- 20、西村 晃（広島県立文書館）  
広島藩における村方文書の管理規定とその実態 —竹内家文書の目録作成に向けて—
- 21、佐藤 芳郎（国史館大分県分館）  
史料管理学研修会と国史館資料室
- 22、柳川 幸子（上越教育大学大学院）  
自治体史編纂後の史料保存と活用について—中頸城郡吉川町史編纂をめぐって—
- 23、河野 元子（久留米大学大学院）  
近世後期における日記の史料学的考察 —佐藤常足「家事雑記」のデータベース化を試みて—
- 24、立石 恵嗣（徳島県立文書館）  
徳島県立文書館における絵図資料の保存と利用につい

### て 複製化に関する一考察—

- 25、近藤 文子（徳島県立文書館）  
徳島県立文書館所蔵GHPQ/SCAP CAS 文書の整理
  - 26、森田 朋子（お茶の水女子大学大学院）  
幕末における一農民の文書利用・保存活動の一例 —横浜市磯子区堤芳正家所蔵文書をてがかりに—
  - 27、ローリー・ワット（お茶の水女子大学大学院）  
お茶の水女子大学女性文化研究センター —史料管理学という立場からの評価—
  - 29、小川 朝子（学習院大学大学院）  
現代企業アーカイブズについての一試論 —虎屋文庫を素材として—
  - 30、後藤 功（学習院大学大学院）  
内膳司濱島家文書目録の項目編成について
  - 31、内山 公宏（学習院大学大学院）  
事例報告 —戦時における蓬左文庫の史料疎開について—
  - 32、渋谷 集子（学習院大学大学院）  
「御用村用諸事日記」の記録史料論的分析 —その性格と内容—
- ### —[短期研修過程]—
- 1、伊東 祐之（新潟市役所国際文化部市史編さん課）  
「新潟町会所文書」の構成と伝来
  - 2、鈴江 智（枚方市役所市民情報課）  
枚方市における近世史料の保存と活用について
  - 3、丸尾 寛（香川県立文書館）  
家文書整理における問題点 —寄贈山下家文書の場合から—
  - 4、玉木 順彦（北谷町公文書館）  
近世文書の民俗資料としての活用について —沖縄県先島の古文書の事例—
  - 5、水野 和明（愛知県公文書館）  
愛知県公文書館における史料保存の現状と対応策
  - 6、西口 佳子（愛知県公文書館）  
愛知県における史料調査の現状と課題
  - 7、檜山 文（神奈川大学大学院）  
藤沢市史新聞記事目録の作成に携わって
  - 8、松田 昌雄（久喜市公文書館）  
久喜市公文書館における資料の取扱いについて —資料の収集・整理・保存・公開—
  - 9、荒木 清二（広島県立歴史博物館）  
広島県立歴史博物館における史料整理の現状と課題
  - 10、岩田 智穂（静岡県教育委員会）  
博物館法と公文書館法 —その成立と資料の取扱いについて—
  - 11、海道 静香（福井県総務部県史編さん課）  
福井県史での絵図史料調査について
  - 12、鎌田 和栄（和歌山県立文書館）  
「東大塚村上野家文書目録」における内部構造と構造的別分類目録の問題点について
  - 13、林 善人（三重県総務部学事文書課）  
公文書及び役場文書の保存と現状について
  - 14、安田 晃子（大分県教育庁文化課）  
大分県先哲史料館における史料保存利用の課題と展望
  - 15、本田 雄二（新潟県立文書館）  
史料整理と目録編成について —原秩序尊重の目録編成と分類項目付与の有機的相关—
  - 16、徳永 和夫（新潟県立文書館）  
小規模文書館での目録編成について
  - 17、外内千恵子（新潟県立文書館）  
質地証文の様式変化について —天領佐渡の事例から—
  - 18、高橋 郁子（新潟県立文書館）  
文書館における図書資料
  - 19、本多 陽子（新潟県立文書館）  
文書管理におけるいわゆる「ファイリングシステム」

の導入をめぐる ―新潟県の事例―

- 20、西田かほる（学習院大学史料館）  
菅田天神社文書と岩間明神文書について
- 21、高橋 敦子（学習院大学史料館）  
学習院大学史料館の図書整理と今後の課題
- 22、藤 博明（福岡県立図書館）  
文書館における専門職員の養成について
- 23、森本 ルミ（國學院大学大学院）  
市史編さん事業終了後の編さん室の在り方について  
―千葉県習志野市を例にして―
- 24、雪松 直（香取神宮）  
香取神宮における史料と管理について
- 25、細野 順子（共立女子大学文芸学部造型芸術研究室）  
「利用を目的とした保存」その対策について  
―修復と代替化―
- 26、古田 功治（大府市歴史民俗資料館）

- 大府市における史料収集と今後の課題
- 27、伊藤 勝美（秋田県公文書館）  
移管資料の再整理について
  - 28、龍野 直樹（和歌山県立文書館）  
保存施設としての和歌山県立文書館
  - 29、三宅 優子（徳島県立文書館）  
徳島県立文書館の史料整理・保存と課題 ―阿波国美馬郡半田村酒井家文書を事例として―
  - 30、武井 一仁（高知市立自由民権記念館）  
高知市立自由民権記念館における史料整理の現状と課題
  - 31、郷田 谷子（東村山市立郷土館）  
東村山市立郷土館の古文書史料整理についての課題
  - 32、北出 橋夫（上野市役所総務部市史編さん室）  
「上野市史」編さんへの歩みと史料調査について

## 彙報

### ○史料の収集

本年度のマイクロフィルムによる史料収集は、北海道松前郡福島町宮歌村文書、飛騨国大野郡高山町戸長役場文書、信濃国埴科郡下戸倉村坂井家文書の三件と、特定研究「近世史料の古文書学的研究」により美作国津山松平家文書について実施した。各文書の概要については、本号「新収史料紹介」を参照されたい。

### ○史料の所在調査

本年度は、松江藩郡奉行所文書（伝「御徒文書」）と飛騨国大野郡高山町会所・戸長役場文書の二件について実施した。

### ○史料保存機関事務連絡及び調査

鎌谷美枝子が大府市立史料館および長崎県立図書館（一九九五年三月八日）  
○日、林宏保が日田市立淡窓図書館・大分県立大分図書館・北九州市立文書館（同年三月三日・一五日）において実施した。

### ○評議員会と運営協議会の開催

一九九四年二月二七日、九五年一月二〇日、二月二二日に運営協議会、同年三月二五日に評議員会がそれぞれ開催され、管理運営の概況、本年度事業報告、次年度概算要求、教官人事等の議事

が評議ないし協議された。

### ○出版物の刊行

1、「史料館所蔵史料目録」第六一集として、「尾張国名古屋大山屋神戸家文書」を刊行した。

2、「史料館研究紀要」第二六号を刊行した。内容は次の通り。

・史料保存をめぐる国際情勢 保存科学国際会議に参加して 馬淵久夫  
・「北海道一級町村制」についての考察 ―「北海道一級町村制」各条項との比較など 鈴江英一  
・近世の御振舞いの構造と「御鷹之鳥」観念 大友一雄  
・尾張藩士西部相嘉と「諸国郷帳」の成立 ―史料論賞書 その一 福田千鶴  
・近世における史料保存管理に関する一考察 ―京都門跡寺院妙法院「日記」を素材として 青木睦  
・戸長役場史料論（三） 丑木幸男  
・近世史料論Ⅰ「御用留」の性格と内容（七） ―武州在原郡上野毛村「御用留」の検討 森 安彦

・北欧の文書館と文書館専門職 ―一九九二年訪問調査概要報告 安藤正人  
3、「史料館報」第六一号（九月刊）、第六二号（本号）。

○一九九四年度史料管理学研修会終了証書の授与

所定の教科目を履修し、レポート審査

に合格した者に修了証書を授与した。詳細は本号「一九九四年度史料管理学研修会修了者一覧」を参照。

○一九九五年度史料管理学研修会（通算四一回）の開催予定。

一九九五年度の史料管理学研修会は次の通りの開催を予定している。追って募集要項を各関係機関に配付する。

A長期研修課程 会場 国文学研究資料館 前期 七月三十一日～八月二八日 後期 九月四日～九月二九日（前後期とも最後の一週間は研修レポート作成期間）。募集人員三五名。

B短期研修課程 会場 広島市 せとうち苑 一月六日～一月一七日（最後の二週間は研修レポート作成期間）。募集人員三五名。

なお、研修レポートの作成は長期・短期とも、それぞれの自宅ないし職場において作成してよいものとする。

### ○館内研究会（敬称略）

「三九回」 一九九四年六月一六日  
史料管理プログラムの設計 鈴江 英一  
「四〇回」 一九九四年一〇月二五日  
神戸家文書の目録編成 渡辺 浩一  
近世史料論Ⅱ（幕藩史料） 福田 千鶴  
「四一回」 一九九四年十一月一七日  
史料所在情報の検索システムについて

山田 哲好

〔二四二回〕 一九九四年二月二七日  
保存科学の国際状況

作陽短期大学教授・史料館客員教授

馬淵 久夫

〔二四三回〕 一九九五年二月二一日

『家康之御代大名衆知行高辻帳』をめぐって

学習院女子短期大学教授 松尾美恵子

〔二四四回〕 一九九五年三月二〇日

中世的文書主義とは何か

岩手大学助教授 菅野 文夫

○特定研究に関する研究会

一九九五年二月一四日、特定研究「収蔵史料の修復・復元に関する基礎的研究」に基づく研究会を開催し、青木睦が「史料の保存修復の基礎的研究の目的と課題・断裁史料の復元と修復の実践内容・史料管理学研究会における保存修復課程」について報告した。

○特定研究に関する調査研究

一九九五年二月三日・二四日、特定研究「収蔵史料の修復・復元に関する基礎的研究」に基づき、高木俊輔・山田哲好・青木睦・福田千鶴が、元興寺文化財研究所保存センター保存修復室・京都国立博物館文化財保存修理所・奈良県立橿原考古学研究所において調査研究を実施した。

○研究交流

一九九五年一月三〇日、「記録史料の

情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究」と題する研究会を開催した。報告者は次の通り（敬称略）。

・記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化をめざして―特定研究の目的と課題―

史料館助教授 安藤 正人

・資料目録のデータベース化について  
東京大学史料編纂所助教授

横山 伊徳

・史料学の成果と課題―史料管理学の立場から―

史料館助教授 大友 一雄

・近現代史料の保存利用体制の準備のために―戦後五〇年とアジア太平洋の視点から―

中央大学教授 吉見 義明

○海外研修

山田哲好が一九九四年一〇月三日から一月六日まで、国際文書館評議会東アジア部会主催「記録管理の自動化に関するワークショップ」に参加するため、中国（北京）に海外研修をおこなった。

安藤正人が一九九四年一〇月二五日から一〇月三二日まで、国際文書館評議会専門職教育養成部会主催「東欧・中欧の政治変革とアーキビスト教育への影響に関するシンポジウム」に参加するため、スロベニア共和国（リュビアナ）に海外研修をおこなった。

○史料館教官研究・教育活動一覽  
（一九九四年一月から二月まで。ただし、大学出講は一九九四年度）

①森 安彦

・著書『古文書が語る近世村人の一生』（セミナー「原典を読む」4、平凡社八月）

・監修・共編著『古文書を読む―解読実践コース』（平成六年度版、日本放送協会学園、四月）

・共編著『世田谷区史料叢書』第九卷（世田谷区教育委員会、三月）

・共編『里正日誌』第九卷（東大和市教育委員会、三月）

・論文「御用留」の性格と内容（六）―武州荏原郡上野毛村「御用留」の検討―（『史料館研究紀要』第二五号、三月）

・講演「地域社会にとって文書館（史料館）はなぜ必要か」（信州大学教育学部歴史研究会、一月八日、山王共済会館）

・講演「幕末維新期、庶民の識字力の展開―寺子屋・郷学・学制発布―」（国文学研究資料館第二七回夏期公開講演会「幕末から明治へ」七月二八日）

・講演「近世史料論―史料整理と目録編成―」（第二三回駒沢大学大学院史学会大会記念講演、駒沢大学、一〇月二九日）

・講義「古文書の収集・整理」（国立公文書館主催、第七回公文書館等職員研修会、一月一五日）

・講義「近世文書の整理」（日本古文書学会・法政大学史学会共催「古文書講座（中級）」、法政大学、一月二六日・二月一〇日）

・講義「古文書の整理と保存」（日本放送協会学園生涯学習局「古文書を読む」公開講座、NHK国立ポロピルA教室、二月四日）

②高木 俊輔

・著書『日本近世・近代における村落生活史の基礎的研究』（信州大学文学部、三月）

・解説・翻刻「中入村明和騒動・当村徒党日記」（松本市史・近世部門調査報告書）一、三月

・講演記録「明治維新と関東草莽の運動」（九十九里叛乱）第三号、六月

・論文「近世後期刊方騒動の背景」（信州大学人文学部『人文科学論集』28号、三月）

・論文「山本金木日記」（『日本「日記」総覧』、新人物往来社、四月）

・書評「河内八郎・徳川斉昭・伊達宗城往復書簡集」（『茨城県近代史研究』9号、二月）

・大学出講 信州大学人文学部日本史学特論

### ③鈴 江 英 一

- ・論文「文書館の業務と公文書館法―秋田県公文書館条例等の規定をめぐって―」(『秋大史学』四〇号、秋田大学史学会、三月)
- ・分担執筆「新札幌市史」第三巻通説三(札幌市、三月)
- ・報告要旨「自治体史のなかのキリスト教史―札幌市史の経験を中心に―」(『日本プロテスタント史研究会報告』第五号、一月)
- ・評論「現代史を含む地域宗教史の構築へ」(『地方史研究』二五〇号、地方史研究協議会、八月)
- ・書評「書評『余市自治発達史』」(北海道史研究協議会「北の青風」三月)
- ・講義「文書館の業務について」(全国歴史資料保存利用機関連絡協議会研修会、十月十九日、横浜市)
- ・講義「恵泉女学園の史料管理について」(恵泉女学園、十一月十四日、東京都)
- ・報告「地域キリスト教史の試み―札幌市史の事例による―」(横浜プロテスタント史研究会例会、一月一五日、横浜市)
- ・報告「公立文書館の活動から」(企業史料協議会・全国歴史資料保存利用機関連絡協議会研修会第二回合同研究会、一月二十一日、東京都)

### ④丑 木 幸 男

- ・論文「土族民権家の動向―木呂子退蔵と北海道」(『宗教史・地方史論叢』所収、刀水書房、三月)
- ・論文「豪農経営の展開―上州勢多郡水沼村星野家の事例」(『ぐんま史料研究』第二号、群馬県立文書館発行、三月)
- ・共同執筆「高等学校詳解日本史B」清水書院(三月)
- ・論文「戸長役場史料論(二)」(『史料館研究紀要』第二五号、三月)
- ・紹介「群馬県地方史研究の動向」(『信濃』第五三四号、信濃史学会、六月)
- ・論文「政党政治家の北海道国有未開地貸付運動―群馬県選出代議士高津仲次郎と北海道」(『群馬文化』二四〇号、群馬県地域文化研究協議会、一〇月)
- ・分担執筆「近代群馬のあゆみ」(群馬県立歴史博物館、一九九四年一〇月)
- ・紹介「地方史研究の現状 群馬県」(分担執筆、『日本歴史』第五五八号、一月)
- ・共同編纂「群馬県姓氏家系大辞典」角川書店(二二)
- ⑤安 藤 正 人
- ・目録「史料館所蔵史料目録第六十集・越後国頸城郡岩手村佐藤家文書目録(その四)」(三月)

### ・講義「記録遺産の保存と文書館」(埼玉県立文書館主催文書史料取扱講習会、二月七日)

- ・講演「21世紀に活かす行政の足跡―歴史情報資源としてのアーカイブズ」(八潮市立資料館主催公文書保存講座、六月八日)
- ・報告「日本における古代文書の保存管理」(青木睦と共同)(敦煌遺書古文書学国際シンポジウム、中国敦煌、八月三日)
- ・報告「『記録遺産』の思想―いわゆる『文書館学的記録史料整理論』のめざすもの」(日本史研究会例会、九月一七日)
- ・報告「Recent Development of Archival Science and Archival Education in Japan」(東欧中欧の政治変革とアーキビスト教育への影響に関する国際シンポジウム、リュビアナ(スロベニア)、一〇月二八日)
- ・講義「アーカイブズとアーキビスト」(法政大学・企業史料協議会共催ビジネス・アーキビスト養成講座、九月二七日)
- ・報告「The Development of a Data Base of the Location Information on the Early-Modern and Modern Archives in Japan」(山田哲好と共同)(国際ドキュメンテーション連盟世界大会、大宮、一〇月三日)
- ・講演「『記録遺産』の思想と文書館システム―世界と日本」(沖縄県文書館シンポジウム、一〇月一五日)
- ・講義「史料管理の原則」(法政大学・企業史料協議会共催ビジネス・アーキビスト養成講座、一月一日)
- ・講演「地域の記憶、地域の未来―文書館を考える」(熊本県古文書解説読りター養成講座、二月八日)
- ・大学出講「お茶の水女子大学文教育学部 史料管理学」
- ・大学出講「早稲田大学大学院文学研究科 日本史特講(史料管理学)」
- ・研究助成「民間所在史料の保存・管理に関する研究―山梨県大月市星野家文書を素材にして」(文部省科学研究費補助金一般研究(c))
- ⑥山 田 哲 好
- ・論文「史料所在情報の集約とその解析的研究」(平成五年度科学研究費補助金(一般研究A) 研究成果報告書)三月
- ・書評「田華族家史料所在調査報告書」(『記録と史料』第五号、九月)
- ・報告「The Development of a Data Base of the Location Information on the Early-Modern and Modern Archives in Japan」(安藤正人と共同)(国際ドキュメンテーション連盟世

界大会、大宮 一〇月三日)

・報告「日本の文書館におけるコンピュータの利用状況」(EASTICA II 国際文書館評議会東アジア部会「記録管理の自動化に関するワークショップ」、中国・北京市、一九九四年一月四日)

・大学出講 立正大学 博物館実習(記録史料の調査・収集・整理・保存管理と利用)

#### ⑦大友 一雄

・共編著『日本農書全集』六六巻、災害と復興1、「富士山砂降り訴願記録」農文協 四月二十五日刊)

・共著「人間市史」通史編(分担執筆)

(人間市役所発行、八月二十一日刊)

・共編「里正日誌」第九巻(東大和市教育委員会発行、三月三十一日刊)

・書評「岡山大学附属図書館蔵池田家文庫藩政史料マイクロ版集成」(「記録と史料」五号、九月三十日刊)

・報告「関東近世史研究会大会報告(富善一敏氏「検地帳所持・引継争論と近世村落」)批判(十二月三日)

・大学出講 上智大学文学部、同大学大学院 古文書講読

#### ⑧渡 辺 浩 一

・論文「近世の地域社会と在方町」

(「史料館研究紀要」第二五号、三月)

・特論「在方町」(「岩波講座日本通史」

一二「近世」マ、岩波書店 三月)

・資料紹介「仙台城下町の「表長屋」について」(「建築史学」一三三号、九月)

・論文「近世城下町における町と仲間―仙台を事例として―」(「都市史研究会編「年報都市史研究」二号、山川出版社、二月)

・報告「播州三木の地子免許維持と史料管理について」(「都市史料を読む会、六月二七日、東京大学文学部」)

・大学出講 秋草学園短期大学 日本文化史

#### ⑨青 木 睦

・論文「災害の実例と史料の救助、復元処置」(Library & Information Science News No.79、六月)

・報告「史料の救助―火災に学ぶ―」(日本図書館協会資料保存委員会1月例会、一月二日)

・講演「古文書をよむ、まもる、のこす、てわたす」(栃木県小山市立博物館古文書講習会、二月一〇日)

・講演「史料を未来につなぐ保存技術」(栃木県立文書館 古文書研修会(応用コース2)、二月一四日)

・講演「日本における古代文書の保存管理」(安藤正人と共同)(於中国敦煌、中国国家档案局主催 敦煌遺書国際シンポジウム、七月三日)

・講演「史料を未来につなぐ保存技術」

保存・修復・環境・人(学習院大学史料館講座14、七月六日)

・研究発表「伝統的史料保存容器の記録化に関する一考察(日本古文書学会大会、一〇月三日)

・講義「資料の保存技術―紙の資料(保存手当て)―」(法政大学・企業史料協議会共催ビジネス・アーキビスト養成講座、一一月一五日)

・報告「記録史料の保存・修復に関する理論と技術の発展をめざして」(第二回記録史料の保存・修復に関する研究会、一一月二四・二五日)

・講演「判決原本の保存に向けて」(判決原本保存利用研究会、一一月四日)

・報告「記録史料の保存を考える会の歩みと今後の課題」(全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会月例研究会、一一月一七日)

⑩福 田 千 鶴

・論文「江戸時代前期の政治課題―「御救」の転換課程―」(「史料館研究紀要」25号、三月)

・論文「元和の一國一城令と諸国城破り」(「歴史と地理」四七二号、一一月)

・書評「笠谷和比古著「近世武家社会の政治構造」」(「日本歴史」五五三号、六月)

・報告「尾張藩士莪部相嘉と「諸国郷帳」

の成立」(近世史研究会、四月二六日、名古屋市)

・報告「福岡藩家老「御用扣帳」の分析」(知行制研究会、一一月四日、東京都)

・報告「幕藩制の意志決定システム論の検討」(幕藩研究会、一一月一五日、東京都)

・研究助成「寛文・延宝期における幕政史並びに藩政史の構造的連関性についての基礎的研究」(文部省科学研究費補助金奨励研究A)。

◎閲覧業務停止のお知らせ  
蔵書点検の実施にともない、左記の期間の閲覧業務を停止します。  
四月二四日(月)～五月二日(火)  
閲覧業務再開 五月八日(月)

#### 史料館報 第六二号

平成七年(一九九五)三月三十一日

編集兼 国文学研究資料館

発行者 史料館

〒一四一 東京都品川区豊町一ノ六〇二〇

電話〇三(三七八五)七三二(代)

FAX〇三(三七八五)四四五六

印刷所 東京都台東区寿三ノ一四ノ五

有限会社 スミダ

電話〇三(三八四)二七三三